

▽発信元・お問い合わせ先はこちら  
「人材ビジネスの発展を通じてヒトの成長を追求する」  
株式会社ヒューマンビジネス・コンサルティング

TEL : 03-6909-8644/0120-973-644

E mail:info@hb-consulting.jp

## 失業率、男女の開き最大＝産業構造変革で男性低迷－09年度

総務省が30日発表した労働力調査によると、2009年度の男女別の完全失業率は男性が5.5%、女性が4.8%で、男女間の開きは0.7ポイントと過去最大になった。産業別の就業者数を見ると、男性が多い建設業と製造業は減少し、女性の進出が進む医療・福祉は増加傾向にある。こうした産業構造の変革が、男女の失業率の開きを拡大させている。

男性の失業率は1980年代から90年代中ごろにかけ、女性を下回る傾向が続いたが、98年度に逆転。それ以降は男性の方が高い。建設業の就業者数は97年ごろピークを迎えた後、減少傾向に転じており、男性の失業率の大きな押し上げ要因になっている。

10年3月の産業別就業者を、比較可能な02年の3月と比べると、建設業は公共事業減少のあおりで139万人減少。製造業も相次ぐ工場の海外移転で180万人減った。これに対し、医療・福祉は高齢化を背景に183万人増えた。

医療・福祉では、09年度は政府が人手不足の介護分野のPRなどを強化し、就業者拡大に拍車がかかった。保育分野も今後、就業者は共働きの広がりで一層の増加が期待されるが、介護と同様、女性が多数を占めそうだ。

(2010年4月30日 時事通信)